



祇園物語 上



特別  
13  
1214  
1



湖3  
1214  
1-2

藤野 潔 氏遺墨

明治四十年四月五日  
藤野 漸 氏書



祇園物語上

昔行く妻のいとのどやうふ。花もゆかりなう。水々々バ  
老乃意と乃るんと。友方り人共一人二人いさうひ。老よ  
竹筒と杖を杖よゆを也。東山祇園のう。成。あ。ろ。ろ。  
鴨河のい。さ。流。よ。は。と。す。ぎ。子。か。わ。り。ひ。て。お  
は。ま。海。り。け。る。ふ。我。の。こ。あ。も。あ。ら。と。或。ハ。わ。ら。美。女。房  
の人あまこひつ。ま。め。ら。り。せ。家。も。あ。り。又。六。耳。順  
み。ゆ。ま。り。一。老。人。の。お。こ。ま。れ。もの。子。と。引。針。ゆ  
と。足。へ。し。あ。や。う。こ。ね。ひ。く。れ。あ。り。ゆ。ら。後。と。小。治。治  
風。舞。雪。と。ゆ。う。ら。も。か。く。や。あ。ん。さ。す。う。教。の。い。か  
ひ。と。あ。や。う。か。り。事。と。も。あ。る。さ。そ。て。松。原。と。み。ま。い。暮。希。と



うらさうらむ。珍物の骨ーにあらる。あつ。さふ。海  
 をく人あふ。あつ。い。あつ。ん。す。く。き。り。き。  
 お。く。焼やのふあひま。風よかの。い。く。く。ん。ん。  
 ね。あ。つ。あ。ひ。を。殺。た。く。く。あ。つ。し。お。ま。肉。の。侍。  
 と。あ。つ。く。く。人。と。あ。り。侍。も。あ。り。何。人。と。ん。く。く。七。八。  
 人。あ。り。た。り。何。く。く。人。と。あ。つ。く。く。茶。の。の。  
 あ。ひ。く。の。物。さ。う。く。け。く。あ。つ。く。く。あ。つ。ひ。あ。ま。  
 ち。く。ん。と。や。ち。中。お。入。り。す。え。ま。く。く。あ。ひ。く。く。あ。  
 ま。く。く。け。く。く。あ。あ。さ。か。ひ。さ。く。く。あ。つ。人。信。あ。  
 物。く。り。と。く。物。と。推。方うかあ。あ。は。さ。を。救。ふ。ま。く。く。く。利。  
 ぐ。あ。ん。く。く。さ。れ。く。あ。く。く。す。あ。つ。ち。個。の。く。く。あ。つ。あ。

わ。の。人。く。あ。二。三。千。と。あ。り。も。賣。り。也。を。れ。中。の。  
 傍。日。さ。あ。つ。に。お。り。海。さ。物。と。く。あ。つ。あ。く。く。く。く。  
 き。く。く。り。の。あ。あ。あ。ん。と。あ。つ。あ。く。く。あ。り。じ。あ。入。り。白。  
 世。の。中。あ。く。あ。つ。の。友。と。く。く。く。く。あ。く。く。く。く。あ。つ。  
 く。あ。く。く。あ。く。く。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。  
 馬。ま。御。末。村。の。あ。あ。あ。あ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。  
 つ。く。ん。傍。日。さ。あ。つ。に。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。  
 物。く。り。の。入。り。日。と。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。  
 の。ま。あ。ひ。と。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。  
 と。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。  
 と。傍。日。世。の。中。も。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。あ。つ。

けり此書はがわらぬ終までしとせり。鄭家の  
の屋川に待たふと屋ん。それう一辺は鳥丸とこ  
よりしにお用此物なりやわらと物本をぬえりういわ  
ゆ。家のあつらひぬえり。まぬんとせしにぢくより  
十一二たうひあれわて。何の物も用ひらふおかこを  
ひとて。表れし作若れ者すく。ぬふりける。孟母の三  
遷を思ひしう。寺にけり。に象といふけり。また海のわら  
かり。指といふこと。造りて。回一世人といふこと。た  
善とぬ。わらまわり。まぬハ。そのあつらひせん。あつ  
ハ。物本のよりひ。けりさかり。誰人もせん。のありと。ぢく  
まふりし。そのいふ。や。けり。人の。昼表て。あつら。本を

まハ。その。冷める。あつら。し。今。す。り。程。の。か。く。さ。ま。に。は。物。終  
ひ。入。り。日。作。の。れ。る。う。く。の。処。こ。わ。く。さ。れ。か。う。り。せ。り。さ。え  
げ。物。ご。り。ハ。上。下。二。冊。の。大。な。ハ。空。言。と。り。の。上。卷。ふ  
ハ。法。あ。ま。り。乃。明。礼。と。論。と。多。く。問。答。あ。り。下。卷。ふ。法  
あ。ま。り。下。向。の。る。ま。う。海。門。の。後。表。う。り。と。し。め。さ。く  
あ。つら。さ。く。い。は。れ。と。あ。り。が。う。に。法。水。上。下。向。の。耐。え。る  
さ。ぬ。と。書。は。ふ。う。り。法。水。物。ご。り。と。り。也。だ。し。法。あ。り  
る。に。た。ま。世。上。の。人。方。の。あ。れ。と。あ。つら。ひ。ける。あ。つら。ん  
作。若。乃。が。ま。と。あ。づ。一。物。ご。り。ふ。日。明。礼。問。く。日。  
説。音。物。の。説。を。形。や。と。う。ひ。ふ。ふ。い。ぬ。い。知。世。者。と。い。ふ  
あ。れ。と。の。い。は。れ。異。説。と。の。い。ふ。て。母。の。事。う。か。り。り。こ

次上

不事於也。形るぬ。あつるふけ煩礼の中也と。なしく乃  
哭ま難ん母をのぬ人あり。その時發交う。親世者ともま  
りるも。其あつるはたうま。いり。母あつる乃うふ  
くも。形る。佛も河うりとの。のふ物あつる。即ん全云。  
翁答曰。親世音に。びや。いま。由す。人く此ふ。よ。うそ  
わりと。あそ。ぬ。い。れ。ら。西。前。た。り。鏡。し。が。の。の  
ゆ。ふ。く。わ。ま。鏡。母。う。け。ふ。び。ふ。志。れ。う。ら。乃。こ  
ゆ。は。是。ゆ。く。う。あ。ひ。あ。ま。あ。る。ゆ。と。は。を。の。く。む  
く。と。う。と。は。を。の。て。あ。い。は。ら。を。を。の。く。む。い。ん。  
い。は。う。う。そ。き。あ。う。ゆ。ふ。何。事。を。う。あ。と。ぬ。人。れ。の  
い。ま。る。を。ゆ。く。び。う。ひ。ゆ。ふ。あ。う。あ。く。と。い。り。ん。

偽曰。物ごうりぬ。い。海。う。り。を。あ。く。孝。う。り。さ。き。際  
智。さ。の。な。と。た。う。人。と。ま。あ。る。一。節。の。ま。じ。り。と  
た。め。て。一。鏡。の。味。と。あ。り。一。節。と。み。く。百。節。と。う。り。地  
二。寸。に。う。り。て。う。あ。大。小。と。ま。い。ま。人。の。一。言。ま。う。り。て。ま  
賢。愚。と。あ。る。と。あ。ん。君。子。の。一。言。と。い。て。為。者。一。言。い。ふ。不。志  
と。と。り。の。う。り。と。あ。物。ご。う。り。と。の。ま。い。や。り。ゆ。う。ふ。さ。う。て。い。か  
あ。乃。を。ふ。う。と。め。信。を。あ。う。て。偽。者。と。あ。ま。う。う。ふ  
と。利。生。れ。た。う。ん。中。説。宣。の。詠。に。も。あ。つ。ま。い。ま。い。ま。い。ま。い。  
か。み。い。の。う。ん。理。り。ま。い。と。神。か。う。う。め。と。也。古。今。以  
已。不。信。莫。難。金。言。と。い。り。辟。言。燧。う。い。し。か。え  
ち。う。ま。あ。り。あ。つ。火。は。は。き。ま。う。ん。親。世。音。の。威。力。の

成二  
口



う乃定葉ハ。仏乃心方あくとも。とくひんを記とも。使きこり。  
 佛の九折の大難。一あひゆびも。定葉のれが。記理り  
 と。存生に志多。一ゆふ。現たり。あし。定葉亦。結持  
 と。尸義以上。死乃。折者。定葉乃。災難。ありとも。乃か  
 且。逆。う乃。僧人。陳鍼。開善。た。の。とい。う。実。禹と  
 と。尸人。二紀。乃。壽。命。今。と。の。下。と。あり。昼。夜。六。時。よ。記。さ。る。  
 惣。音。と。信。一。牙。口。是。乃。三。業。に。強。く。念。一。と。く。定。業  
 と。佛。と。ん。き。た。り。観。音。と。く。信。一。災。難。と。乃。が。ま。り  
 人。と。親。き。験。記。と。尸。ふ。お。お。くの。き。と。定。葉。あ。る。ふ。と。何  
 乃。人。と。つ。り。小。親。き。と。念。一。を。ひ。六。折。と。満。足。一。災  
 難。と。の。つ。ま。い。と。つ。り。あ。り。常。に。た。む。ひ。と。つ。さ。守。何。も。と。

災難の事り。此ハ。假。一。行。ひ。い。と。念。は。その。分。あ。く。を  
 秘。ひ。乃。も。之。き。屋。う。か。一。經。の。中。に。譬。ハ。昔。國。一。に  
 あり。道。花。と。あ。の。と。ゆ。ひ。大。な。地。と。り。物。お。か。れ。守  
 と。く。志。多。ひ。ま。り。ふ。國。中。に。ま。集。群。集。ま。く。め。思。く  
 小。親。と。た。り。地。と。あ。し。と。つ。り。小。の。と。下。と。念。今。一。を  
 乃。ら。花。と。た。り。地。と。あ。り。今。あ。り。曲。る。ま。た。た。なる。と  
 の。勅。あ。り。一。に。ま。人。花。と。く。執。心。一。つ。た。り。と。り。も。と  
 が。か。と。り。と。つ。れ。ん。と。其。ひ。を。秘。人。比。た。り。友。小。信。念。一。と。り。よ  
 交。う。ま。き。乃。を。屋。一。と。つ。り。あ。り。と。り。乃。中。に  
 乃。り。と。つ。り。と。つ。れ。ん。あ。り。た。り。い。と。乃。時。ハ。野。や。り。乃。と。つ。り  
 乃。と。つ。り。乃。ま。り。い。と。乃。と。つ。り。地。の。中。に。い。と。乃。と。つ。り

氏上

ト

ありよまのりみお若ぞとさうぢうとげいん俄よりえん  
 けいこを野あてはとやんれが屋てうとせより國を  
 乃市前へ引てゆきけるよまぞうもあつたん友乃  
 と一上崎なよまのまひとまけうなめ乃日地乃中めく  
 まのとすうたがらにうとせとらまひとまひと今も  
 ぞうまひとまひとまひとまひとまひとまひと  
 罪よおこまのひあつたりとらうとまひとまひとまひと  
 六時よ念じ三葉ふ教を災難とのまひとまひとまひと  
 時よ俄よ念じ念じたるハ俄よ念じまひとまひとまひと  
 利雲たらうと一お書云修験者浮陽と真也眩於  
 沙而思水則無速自挂於患而欲謹則益益ととり

浮陽とノ真ハあ乃よまひとまひとまひと  
 さい実とノおのり人のめくさこととまひとまひと  
 水とさうりてあとなりあつとまひとまひとまひと  
 已俄つとまひとまひとまひとまひとまひと  
 たりと乃經院よあのひとまひとまひとまひと  
 のぞんで俄よ井とあり飢よ乃をうんで苗とつち  
 ころころとせり又涅槃縁の中に情を恒受す  
 事あり是の現世にほく仏并と信しお難乃をな  
 孫よんたつとまひとまひとまひとまひとまひと  
 すころの災難をこふあひてまひとまひとまひと  
 のるありまひとまひとまひとまひとまひとまひと

氏上

七



あまのこくは縁をくまふと引さゆりえんはるま  
がくく未東乃おしじさ器と現世えんすうの哭  
罪よあつてまう借道すううり。是信力乃縁より  
なり。是をわをもて儀持し怪る所とハハなり。これ  
乃んどうくあふて親善を信ても。西教を備えせぬ  
す。まうく人恨し。まうれがまはし。うり親善乃清  
ゆる。まうひさう

一 又次は明礼曰。まうくハ。何處の事と。わ我あつぬハ  
わがぬ。母あつあり。まうに。乃ん。ハ。ま。海。く。く。を  
存之。翁曰。それハ。海。と。ふ。ハ。わ。す。し。ぬ。う。ま。う。を  
か。ら。ま。と。海。く。く。ハ。ま。ふ。ぬ。く。で。入。り。ら。り。ら

室が。紙。わ。き。ま。わ。り。て。我。あ。ん。ハ。海。く。く。あ。て。い。ハ  
む。や。れ。あ。て。あ。ん。な。り。之。公。よ。母。あ。ま。と。ま。ま。ま。ま。ま。  
ま。く。海。く。く。ハ。ハ。ハ。ま。れ。ま。い。

信曰。ま。う。く。く。ま。う。く。く。海。く。く。の。ま。ま。と。ハ。扶。善。而。固。執。  
く。者。也。と。り。人。乃。也。ま。ま。く。く。海。く。く。ま。ん。ハ。公。よ。信。り。を  
ま。け。ま。ま。ま。も。乃。理。ま。う。く。く。あ。き。折。る。れ。だ。海。く。く。あ  
あ。ま。ま。善。に。ま。ま。み。く。を。理。た。り。ま。ま。と。ま。ま。く。く。ま。ま。く。く  
あ。ま。ま。ま。く。く。ま。ま。れ。と。ま。ま。と。ハ。三。綱。五。倫。乃。乃。ま。ま。く。く  
ま。ま。天。命。乃。賊。か。ふ。ま。ま。ま。も。ま。ま。く。く。ま。ま。く。く。ま。ま。く。く。見  
ま。ま。海。く。く。乃。乃。ま。ま。く。く。ま。ま。く。く。乃。乃。ま。ま。く。く。乃。乃。見  
れ。と。あ。り。ま。ま。海。く。く。と。な。り。は。は。乃。中。ま。し。が。戒。た。り。の





いささうりともし。うんばうてあしりりともうりか  
乃新ひよまひたなく今の世ふ用ひてうん人を  
とてす中としふとも物ひらあれれはまら  
あしりりともうりか。あしりりたが。あしりり  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
す下の学文。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。

信曰わうり。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。

ねとひんとうり。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
得失たうり。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。  
あしりりか。あしりりか。あしりりか。あしりりか。

後

こゝろをたゞしや朱縁のまゝに成りしやびや  
 まじりたる訓誨のむらさきとておぼゆる  
 ふうんいふ乃聖賢うて孝と忠とせうたふりし  
 儒におほくまうひもけり此の司馬温公  
 と尸子人官とてのら士とあり用ふ六十科と  
 実らまはし乃物とせり師に上中下あり  
 とわつらへはとせえて修徳をたさめ是れを  
 まれ居る此内のこゝろをたつてその義理と尸  
 宋乃澄子と尸人編衣とてしるひてたゞひとふ

けりしにたゞ婦人の編衣とてよはしむ編衣  
 紡緇と禪緇ありとあり此れありと尸子を同れとて  
 うんし尸子をたまたむ又あり人燒本にせんて大なり本  
 とありとと垂たり隣なりとてしるす  
 乃本然有りしとてまを主人をたあてて人乃本  
 とありととまわたりとあり隣人曰さすなり人  
 の教るふらきとて我うさふ人のまきとありと  
 こゝろのまき本は我うまきとありとあり古教ゆとて  
 人乃まき本は我うまきとて其のまきとありと  
 也我うまきハふまきとありと尸子とありと  
 ありたりハおしよとてはもとを理とハ尸也けり



丁物あくひ。今まてはまう事あくひる事也。  
昔中事をも時うりぬ事とありま事なる事也。  
うりぬ物ハ常五里人のみらうてうりまはれ  
てのちあくあくうぬむらぬおらう事  
三百八十四乃うううも時の一文字おきうまうり  
何れをも時ふりてうりる事也

僧曰方今を時ふりるの下。世是則事及時易  
則俗易とさう。聖人の時はさうひてさあは  
りまう。孤衆とまて。遊賓はあつ。締結とまて。黄  
鐘とまて。衣あさふあつと。時またふねらう。霧  
風うりたれ。宿稷木とさうす。炎氣じと時。曹

めうと衣とけうと。これ時の不可らうとまらうゆらう。  
易の時乃一字候とさう。孔子も聖の時うらう  
とさう。佛法も時とさう。法を弘家も時とさう  
孫ハ利益あり。正像末乃三時とさう。相益は法  
とひらめは法とけり。又極受抄伏の  
二乃公もあり。とくハ旌旗と廟堂と。姐豆と軍  
門よおらんハ相益をぬりたり。されハ法とひらめは  
亦禪のひらめは時とあり。律を弘時とあり。經院  
よまうひて時とまらう。法師と申し  
利益も時ふりらう。あつたふあつた事とありと  
とくあり。得時者昌也とさう。

又次ふ順礼目は其國を足めらるる人のお稱より  
 かりりらんやハたふさうくくをねる人なりし  
 たりすもみくう風俗の多岐多きことハおしめされ也。  
 翁曰もつてその人の心をあらうけたりも其地を  
 けりんとおしめし其子細をうけたりも其地を  
 去るんとしめし其地をけりたりぬるのハ其地をけり  
 十くめとてその地をけり人ハ余もく之也。又一うけり目  
 蓮宗の中ハ何のまこととてけりたり人  
 ありありとてけりしゆをきいてさうせん  
 余よりけり室とてけり堂塔一人ありて  
 と人のきりてけりしゆをきいてさうせん

及ぬ力よきこと一よりけり人ハ其地をけり  
 天地の道理目のまこととてけりたり  
 其ハ人よりけりしゆをきいてさうせん  
 けり乃風俗ありたりしゆをきいてさうせん  
 地のまこととてけりしゆをきいてさうせん  
 とてけりしゆを  
 傷曰わつ約の人ハ其地をけり人  
 かりり人のけりしゆをきいてさうせん  
 とてけりしゆをきいてさうせん  
 けり乃風俗ありたりしゆをきいてさうせん  
 地のまこととてけりしゆをきいてさうせん  
 とてけりしゆを  
 けり乃風俗ありたりしゆをきいてさうせん  
 地のまこととてけりしゆをきいてさうせん  
 とてけりしゆを







人の目おおよめとせひらくあやまるん伏犠の  
 三爻字として申さうらぐらうとまうじりハ爻小う  
 と八卦と名付て。乃卦そ古と万物天地人倫の  
 理りととめ。乾兌離カとの名とまて。一は。毛徳人  
 の目め。智め。及らぬあうら。周の文王ま。元亨利  
 貞乃言とま。三百八十四爻と。又周公旦乃爻辭孔  
 子の十翼とほらうら。繫彖繫象又ハ十  
 翼のあうと。ま。此名儒と。洵解と。作。又日。た  
 てと。昔らうと。智若乃。傳授。儀。狀と。す。り。る。る。ふ  
 毛先伏犠の百千万分乃申れ一分と。く。ま。う。人。ま。ま  
 たりん。え。ハ。八卦。目。に。及。ぬ。の。あり。徳。人。ハ。首。目。小。同

佛法も又く。れ。一。人。東。北。中。の。聖。賢。も。目。小。及。ぬ  
 半も。わ。ん。又。初。り。て。も。時。ら。う。ぬ。と。ま。ら。せ。秘。一。徳。人  
 ぬ。半。も。わ。ん。伏。犠。敏。大王。乃。太子。あ。て。戒。二。お。と。え  
 う。輪。ま。に。た。う。人。と。世。と。ま。れ。う。ひ。ら。る。公。年。あ。う  
 毛。も。も。三。世。帰。回。の。理。り。鏡。子。浮。物。ら。う。く。見。見。あ。家  
 小。う。り。位。と。す。く。お。家。一。人。と。利。益。あ。ん。と。又。十。年  
 力。有。伏。犠。わ。り。一。あり。伏。犠。の。八。卦。ま。と。目。小。及。ぬ。あり  
 毛。ん。を。三。世。の。つ。ん。と。目。に。み。ぬ。と。愚。若。れ。う。ふ  
 ハ。然。り。あ。う。と。生。育。れ。存。生。た。う。ゆ。あり。古。人。小。親。お  
 毛。取。則。得。其。の。見。と。も。尸。廿。九。千。里。馬。ハ。は。の。ふ。何  
 ら。む。伯。樂。ハ。は。の。ふ。あ。し。三。世。の。帰。回。ハ。は。の。ふ。あ。ん

三世と初見する佛ハ常ニまじはる。又平和なるれども  
 玉にかりと見。徳人の目みんぬのこころす。玉人と石也  
 と表しるこころなり。平和なるありあはれとさうさういふそ  
 や。玉と見つる平和なる。一天下乃若あはれめらけい  
 玉とみる。徳人の目みんぬとす。佛の教是まこと  
 ゆるるるれ。善より悪を智見とす。おのこころ愚昧とす。く  
 わく。善あるのみ。めをいふとあはれなり。た偏上とす。善と作て  
 候とす。一。おれ理りらふく。凡人の心よ及らぬ地  
 一。天地の理り目のまことの事。徳人の目みんぬの事と  
 善とす。教りらふく。ぬえともいふ。目みぬ善悪なり。く  
 わん。今乃徳人の目の前により。一。教り仁とおこ

かひ。賢く。命のみ。こと。盗跡。ぬえとも。一。富ん  
 命の長きも。目みぬ。一。教り。く。おあす。盗跡。何  
 ちかあす。目の前れ。理り。なり。悪人のおのれ。善人の  
 とく。おれも。天地の賦なり。目みんぬ。悪といふ。め  
 善と。かひ。さ。あす。一。わめ。善。天理。た。ひ  
 ぬ。おん。これ。ふ。素。の。孝。孝。不。孝。忠。不。忠。た。ふ  
 夫。命。乃。ま。あり。果。多。乃。母。と。害。一。破。鏡。乃。父。と。さ。は  
 慈。鳥。の。百。日。乃。孝。鳩。鶴。の。三。枝。の。礼。も。か。り。善。に。あ。り  
 す。天地のあり。さ。ぬ。み。ふ。自然。一。目。の。ま。ま。なり。樂。討。の  
 善。乃。湯。乃。仁。政。も。み。夫。天。命。あり。い。れ。と。い。ぬ。ぬ。め  
 一。天地。乃。賦。命。よ。く。む。く。ん。き。れ。ハ。ひ。き。目。れ。か

乃天地の理りとししとて但そまき改めりてん世を笑  
 の及ぬ目前とわん又世を笑中を及ぬ我れを笑者  
 わん目よおよとぬとて信法とありきありするん目お  
 見ゆらとて徳人の目とわんはとす其世とわん目  
 ねとぬらとて孔の目とわんはとす也お難の及とわん  
 ら乃とて目お及とて信法とわんはとすんハ現後  
 ちうん世とて一未乃代はありら孔子乃及とて人ら  
 りとすまぬんいんや信法は及ぬわんはとぬまぬ  
 いらよとて信する人まぬんはとて目おとてありゆ  
 又次は順孔曰先とて身おさしとて身とてわんはと  
 けたらとてわんはとて信法とて身とて次身ハ夫と

いふお及とてぬも及らぬぬらぬはとてありす  
 とぬすともわんはとて身とて身とてわんはとて  
 とて及ぬぬらとてわんはとて身とてぬらぬはと  
 ぬえぬらとてぬらとてぬらとてぬらとてぬらと  
 とら身とぬらとて大書の道とて人らとぬらぬはと  
 とハけらとてわんはとて身とてぬらとてぬらと  
 とと名付とて

傳曰わんはぬらとて教乃とてわんはとてぬらとて  
 とおさめすして人と教らぬらとてわんはとてぬら  
 以て庶人よいらとて身とてぬらとてぬらとてぬら  
 いら。大書乃修身の章荀子の修身篇も我れとてぬら

めいどがすらすらする。されは其方とたどる。ほこり  
 とて人をたゞさんする。んともり。業非のたどる。  
 とる。うる。あす。佛は乃中にも。わきとたさ。等。  
 人と教家と。目ある。れもの。れ。守よ。とあす。とり。  
 信。世。ら。と。わ。か。と。お。う。ひ。と。中。と。下。と。教。力。を  
 お。う。ひ。と。ま。ま。の。改。牙。は。大。ま。お。あ。り。こ。れ。ま。ま。の。人。ら。を  
 と。わ。く。く。の。の。依。三。綱。領。八。條。目。ま。の。理。り。は。と。此  
 く。く。う。れ。た。と。と。を。た。り。

又次は順礼曰人々此をてては。人の人らと。は。あ。る。や  
 け。答。く。り。く。人。は。人。ら。人。と。人。あ。ぬ。人。と。は。ゆ。よ  
 人。ら。人。と。人。と。し。ぬ。と。人。と。あ。た。の。も。と。う。く。と。は。ハ

舞乃舞たうころあてゆ多とハあうとておすこ氣きと  
 うとて舞乃舞たうころあててはゆゆとハひひと。猶なほの  
 氣きとくくとハを猶なほの福ふくころあてゆゆり福ふくすすと  
 えうとて。ゆゆふたふたとぬぬすすも念ねんと福ふくころ福ふくすす  
 見みとゆゆとハは福ふくとハひひと。物ものとふふそのみみら  
 みらあり。人ひと人ひととハ人のたありとてとややははあり  
 信しん曰い人ひと人ひととハはゆゆとハひひと。ああるる人ひと楊やう子し  
 少せうとハ同どうハ四し重じゆうとハ四し恒こうとハ恒こうとハ今いまとハ今いま  
 あり。重じゆう言ごん重じゆう行かう重じゆう願がん重じゆう好こうとハ言ごんあり。言ごんあり。けけは  
 とはあり。祈いのちあり。けけは六りく徳とくあり。願ねんあり。けけは六りく徳とくあり。  
 好こうあり。けけは六りく徳とくあり。願ねんあり。けけは六りく徳とくあり。四し恒こうと

尸をりやる人をして人といふ言也。又ハ情欲およりて  
 ハ會くわい門もんはいつとも尸をておてハ人あまも。私欲しやくおか  
 まくハ畜生くじう小同せうどうとそ。これハ佛法の中に人獸の  
 鹿か又ハ鹿野かよの人と尸とと兼あり。じつハ人畜小同  
 とおこまうひてあり。ハ熊くまの居い方かた宿しゆくへ宿しゆくく  
 けおけけ。こ方かた故人こじんをあふれ。食物じよくぶつたしとたえ  
 て助すけはのち。雪ゆきうけて里さとにうけけ。雪ゆき小死せうしをす  
 なく。洗せんこくお居いるそと人同にんどうハ熊くま小助せうすけうま  
 てと尸しけき。又う方かた後ごの居い方かた処ところとあんとせめ同  
 小せうせいにうり。是こゝ惟ただよおより。業ごう内ない者もの子こたりと  
 括くわくとらてそ。処ところとなく。一ひととそ。そのゆき。括くわくを

臂うでをむらひとかり。熊くまハ仁慈にんじおまハ後ごのう人ひとなる  
 人ひとハ慈じとま。孫そんハ人ひとかり。畜く野やハ人ひとなり。鹿か野や神じん農のう  
 方かたハ蛇へび身み人ひと面めん午ご首くび虎こ鼻びる。是こゝも大だい聖せい此こゝ性じやう  
 あり。夏か樂らく殿てん付つハ形かたちち人ひとハ一ひと會くわい歎たん乃のをうり  
 又次またハ順じゆん礼らい人ひとの居い方かたとそ。別べつハうとま。事ことおく  
 小せう。若わか日にちみち方かたあり。居い方かたハ。處ところく。是こゝも。文字もんじ四よつ  
 小せう。大だいさ。こ。を。後ご。ハ。本ほん末ま前後ぜんご。方かた四よつ。方かた字じを。小せう  
 事ことお。あ。て。く。見み道だうハ。分ぶん別べつの。大だい。小せう。ハ。さ。こ。ま。う。う。又  
 こ。り。お。と。け。田でん字じを。あ。て。く。用ようゆ。ハ。け。田でん字じ。方かた。小せう。ハ。  
 さ。へ。く。は。も。人ひと。ハ。方かた。及およ。小せう。ハ。は。う。り。又。字じ。ハ。思し。ひ。たり。と  
 小せう。と。こ。り。う。り。け。て。は。は。ハ。ハ。の。字じ。小せう。ハ。の。字じ。を

あはれ末の字小後の字と何とせし何事と本と云  
し未成候とと居たり。いとすまはるる例にあは  
ま川也と子乃中めく親をもやと。子成未と  
し居たり。親はもとより何事と親と云は  
子乃事と候は。されともいふなり。いと成  
子乃事と本とせし候は。君と居下ととと  
と君は本なり。居はすあなり。君乃ぬめと云は  
力のぬめと候は。千人。男女兄弟朋友乃中と  
うあかより例なり。事ぬめと本と云は。け  
かたさなり。未と候は。千人。以上お禮と云  
ふ字と云へておこも。一年お禮位お禮力

上お禮時お禮力をある。うなりあくもお  
無せぬ。六由とふりたふは。す

佛日人のちあり。例は六本未前後の四文字す。れ  
て知りまると。るを。け。は。か。お。と。と。  
及ととたわと。大。字に。方。日。又。字と。め。せ。る。れ。は。  
と。う。う。ま。り。の。う。階。義。て。持。て。用。と。は。これ。と。を  
か。と。と。へ。お。無。乃。二。字。を。候。り。  
一又次は。礼。日。世。乃。小。字。又。と。と。人。お。わ。ひ。ふ。じ。ま。れ  
は。成。の。の。成。人。か。ま。道。ふ。は。れ。と。の。例。の。は。さ。だ。理  
あ。て。は。や。答。曰。む。ま。道。つ。ら。と。と。の。成。人。の。例。の。例。  
は。成。と。は。石。と。本。と。は。大。小。ち。の。例。の。例。



少くとも楠の本乃石よりなり松の本乃石よりなり  
 少くともみくぬ。是は何と云ふ事そと人ふ尋ね  
 いて。あな水檻あか風をふらりてなりたり。言ひ  
 居るよ。本乃石よりなり。今日水まつあて明日  
 石よかぬゆす。年々つと幾夜と寝てさそをぬ  
 人のせれつともさそ又あてるゆえにさそ理あくる  
 少くとも。どう物よりあすはゆりゆすゆすゆ  
 とこしなつていけいともさそゆすゆすゆすゆ  
 あれとも今時の人のさそ又さそゆすゆすゆすゆ  
 程みゆさささゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 少くとも。あなつたゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

まして人の人よりゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 本乃石よりなりゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 侍曰人の生ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 たりゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 らゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 かなともゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 少くとも。あなつたゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 あふゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
 魚を引よりゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

後人よりともかく功とたがへ。楠の石ふるる屋ふ  
人の公も成りらん。或はまゝうやと針はまはるるまゝ  
孝問とくげと地まりにする人もあり。元貞も乃明  
珍とせし人ハつらめとあらはし。孝問よりかくは  
おろり。地西ゆえんとてまかて。堂の縁は腰とくけ  
わらりしにたつたの石方。寤らるるをてまらる。孝  
問まゝまはるる石の通とらうまらる。人の公乃成り  
伯玉ハ辛酉年になりて。甲午年此非と志り。破竹乃  
はくたうしあり。日女子乃御者ハ法ハ乃一言あく  
仍とあゝぬめまら。侍とたつたしあり。又上知と

下愚とハ不殺と。時ハ何れ功とまらるるもあまら  
ぬもあらん。乃き後めと梅根性根性  
トまあり。梅ハ黒屋とふまらるるもあまらるるためと。  
柿ハ一秋のあははてうれまらる。耳なりは。人の根性も  
く屋の物ありとたり。温而不縮と。ハ上智不殺  
乃らるひら。されハ中人ハまらるるありて。切とはまらるる  
とあり。一時めもまらるるもありと。古人もまらるる。  
又次ハ順礼日年月つらら。久き孝子又若れを乃  
まらるる何れと。あまらるるまらるる。善言と。めらるる  
まらるる。孝子又若れを乃。孝子又若れを乃。孝子又若れを乃  
孝とあらんぬれを乃。孝子又若れを乃。孝子又若れを乃。



学同あり外書云好書而不要諸仲尼書肆也  
 好說而不見諸仲尼說鈴也と尸也。實は如本此棚  
 として賣入るところなり。おぼわうり此辭言たう偽し。  
 伝者とし時いふおぼわうりにとある。未乃世ある  
 ゆへあり。されハ一言一ウありた我抱あてまわうらん  
 ち肝要あり。雖彌千章。不義言語と尸也  
 此を説いてわうあはれたころいひと尸あり

一又次は頌礼曰君子と賢人たの事あはる。賢人  
 人とういふ山崎く入るらんたしに食抱と入米の  
 戸にけりて。さひらりりさあうり人を尸ゆりや  
 若日其おぬ大よあやまらばいせいせ人賢人といふ人

生れつらあはる。またもあはる人なり。賢人といふ  
 心まはつらあはる。賢人おらうら人の事あは  
 して。聖人のこといふありあを大賢と尸。天下は  
 と大甲成王とハ賢人たり。后下ふ其子すあはお  
 りあり。又は某の戸のうら小孝又ておらとあり。又  
 山中るに引こりり時をとうら賢人をあり。市  
 乃中よははまれおら賢人もあり。あはるにあは時  
 おらりさあくうりり事也。さひてりう人賢人と  
 心はらまはらんハ大お遠うらめあてあはいげおあえん  
 らんとしてあり。是ハ何事にしてを聖人のたるを  
 として。さうあはまらりりとしてとていひありあり

賢人あり。又生れつるらんごんあて人中とらるひ山  
中よあて心をすまふ賢人をあつ。さうくそまかひあふれ  
まん中めをぬよ市釣の中あふかよ山中あふ隠居せ  
よそれよさう事あつす

僧曰君子に在位と有徳と力まらんあり。有徳の君子乃  
らふ賢人もらん賢ふ大さく三のおあつ。さうくさう世ふ  
あつて國とおさめ民をあられむあつ。さへ帝王れあふ  
をあつ。後下ふいさうあり。又世れみれがりき時を  
山中あつるにさき居て。さへ國もおさめ人をもさうむ  
さうは時世の中にあつ。さうくさうあつ。又さうに世を  
ひりかりて一向に世よあつ。さうくさうあつ。さうく

城ハ市此中よ居もあつ。山よ居もあつ。さうくさうあつ。さうく  
森澤よ居もあつ。民間よあつ。さうくさうく不言者あつ。  
又卜筮乃るよあつ。勇を金する者もあつ。東方朔ハ  
世を朝廷の房よさうくはともさうあり。さうくさうく  
山谷詩也を陳留此市此中にしてさうくさうく愛さく  
世とさうくさうあつ。陳沈とさうく市釣の中あつ。さうく  
あつ。さうくさうく。賢者避世其次に避地をさうく  
あつ。さうくさうく。人の心をさうくさうくさうく  
と賢人もさうくあつ。隠居も世をさうく賢人也  
あつ。さうくさうく居れ。さうくさうくさうくさうく  
城ハ君とさうくさうく。君いさうくさうく。山林



てうせふつて國をおうけん民とつるれむ人をあひな  
 大人の中にうき居たき賢志をまひくもの也賢志  
 と君は進まのめぬはられはとハハされもいふや  
 うくにふきり。露はつうりて。我ひり威をたてし  
 なをあきなり。物類を以てあひりたしりされハ海を  
 うり困其君をうい人おはれらひあまり。進教をよま  
 進教する人あつまり。大名も後下の賢愚はよま  
 そのさひあつまりと人まきうひあし。わづおひらる  
 りらら賢人をまれよ又うひてとくまらん。さりぬら  
 急乃賢者をあふまきとや。大名の内は賢臣あつる  
 あつまりうん。世の莊王の妃樊姫とハ賢女とてい

君のあめおそまて一人とつひて。られ賢女をたつて君  
 よとくせんら自しては。我ひり君れ露とくまをとおさ  
 けつよあつるもるた。君乃をまきとくまんとてとや  
 十人をもせんま中お賢女二人ありとりされを毛耐の  
 後ハ沈令尹とハ人ともさ。後あつる。今ま賢女を  
 たつて君おまきひつとささくすと。樊姫ハされは  
 すかり沈令尹妃乃と義よらら。孫叔敖とハ  
 賢臣をたつて君よまきせん。三年中ハ霸王  
 とかりおひりる。やにうた賢志をまめ君を  
 よさ。後ハハハ。鮑叔ハ管仲を齊桓公  
 とくせん。魯の陳平を師とす。せん。忠臣れ





又次小幡礼日率余なる事也。是の事も。もも受ひて  
 おりたる。是きより。ひとし。と。押さる。つら。る。あ。は。し。  
 小。若。今。れ。は。く。同。行。と。お。り。き。人。あ。そ。の。の。て。  
 そ。と。し。り。若。人。と。し。ん。ま。の。ら。ま。う。ふ。お。  
 け。え。う。く。ん。ま。こ。中。お。小。豆。さ。つ。こ。ふ。今。  
 け。餅。と。ら。り。つ。け。り。是。時。も。小。豆。と。そ。ら。  
 危。な。い。と。若。と。あ。て。い。は。れ。ぬ。事。と。あ。ん。  
 だ。是。お。わ。ひ。る。は。移。り。物。さ。う。い。ら。り。あ。ん。  
 ま。し。て。う。れ。な。る。さ。う。う。の。ま。ん。な。ぬ。か。た。  
 ま。さ。い。お。と。ま。を。擧。げ。た。あ。げ。ま。す。か。ま。を。  
 あ。り。け。じ。の。中。久。く。お。ん。ま。り。も。ち。お。神。を。あ。い。ま。

僧曰る人し。ある。人。と。は。い。は。れ。ん。は。小。袖。と。し。し。な。  
 心。中。も。ま。ま。り。ん。は。と。し。ち。ふ。か。お。り。う。い。し。中。に。お。  
 わ。く。綿。と。い。は。れ。て。こ。と。子。と。し。し。と。し。と。し。と。し。  
 舞。の。ま。ろ。と。お。り。ま。き。う。り。愚。者。に。う。る。か。れ。ね。根。  
 ち。ぬ。お。り。たり。お。と。國。は。神。在。り。い。し。し。中。あ。る。ま。  
 れ。て。び。ん。ま。ら。い。し。し。し。と。し。し。し。と。し。し。し。し。  
 か。日。本。國。の。結。神。と。ま。か。お。し。國。は。あ。つ。ま。り。あ。ゆ。人。し。神。  
 ち。と。し。し。あり。その。祭。り。赤。豆。と。い。は。れ。け。し。と。あ。り。し。  
 す。う。餅。を。入。し。ち。ち。ま。り。し。と。神。在。り。い。し。し。し。  
 う。神。在。り。し。し。宮。も。あ。つ。と。あり。舞。國。中。は。神。在。  
 月。と。し。し。乃。神。在。り。し。し。と。し。し。と。し。し。と。し。し。と。

人のいふ十月は、露乃ききもあえだも陽あけけ  
 陽あけ地あきほは、陰るけうきし。きき湯あけ月お  
 来極すけあ湯とあはけ湯あきと神を月  
 とくし。されおあに神を月とく不審とんえ  
 人のあきまれあきを中へおな入を好ある人あり。  
 り人あきあきくは、あきくもすも人あきあき  
 は千夜の十字のあき人あきあきあきあきあき  
 にくるあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 りあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 は人あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 されあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 せん山あき月あき掛あき門あき餅屋あき後松あき煎あき茶

とくせうあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 うろの松あき茶あきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 とくあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 又次は、あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 にくるあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 ひあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 吾曰あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 らんあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき  
 あきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあきあき

氏

三十三

中よりんといふ所のいふ所の善田民の中ありし  
 ろんといふ侍田民のうらむく國のたうあふんを  
 それも上一人乃業花のあめあめを登りてあふり  
 て國のあめあめを登りてあふりあふりあふり  
 えんの板をあふりあふりあふりあふりあふり  
 登りあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 うあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 傍日登りあふりあふりあふりあふりあふり  
 乃か登りあふりあふりあふりあふりあふり  
 韓退かたともあふりあふりあふりあふりあふり  
 登りあふりあふりあふりあふりあふりあふり

なとあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 まとあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 墨をあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 下りあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 まとあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 下りあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 中よりあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 まとあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 とあふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 業花乃あふりあふりあふりあふりあふりあふり  
 あふりあふりあふりあふりあふりあふりあふり

おらうて國のすいひするまじもあつとりうらうれ人を書  
 けう方きいぬとさくわりの海を沈まがけりよあ  
 ます或すまのとり或る萬人にもさくおぢり賊の  
 換するあわゆる世に未ふうて人のかあぢり  
 まふゆよ佛林のゆふありうすて尚教し及達し  
 浩水大風元早霖ぬ或る夜さびく老あつてい  
 めく自然とすいひなりと人へり信法ぬ未の世ふう  
 心りのれわらひを淡く播麦の人のほるめさく  
 たりと沈ぬさるるにさくんゆらるる物さうれこく  
 お君のあうりけは人さうりのたのめか民のた  
 たら耕作となり。素なとはをかくまひりゆらんを

なふすいひもあつまうまかり

又次は禮曰徳ふれ侍のさだめきぬさうはゆり  
 おらうらうまめしや答曰う乃ま君れりつひ  
 のまらうらうらうおらう人のをのうれん事を神  
 りづつこのさくうらうのさよしてあらゆへん  
 かりくたう人の君おらうあり人のまうこととん  
 すまふものさまあのをらうとさくんをなたらふ  
 いりらるるれ老かなまよひひきりけりか  
 ころふとありて人なりけりさくめらさく  
 けいふ人のさくさく  
 侍曰の老のうれとあまいる君さうらうの徳あ

ありたり上乃ぬるも下のものいむ和漢うらりあり  
 楚の靈王の人の腰にわさむは好むのく下若舎地を  
 ともなくとてあへの血をうとたひのらに鐵死すま  
 のありの鐵の句蹟を武とて好ひて楚のくえを  
 足て礼をたしむる國のものいひてうらんとて其子死  
 すものおかりしに衣をよめは紫衣とて其子傳衣を  
 ありて下とて若し傳衣とてうとて茶にゆとてめは  
 茶の湯とてうと鞠とてうめは下のもの鞠とてゆいり  
 君ありひの孝とて忠とてうとて礼とてのゆえどのつ  
 死下くれもの孝忠とてうむてうとて君ハ下乃て  
 下のものいむれとて何れもまらひくうとて人うら何

中とては一とてまて地ありはうとて漢の文帝は後  
 物とてのゆくとて庶人かたり齊は景公はかたり  
 るも晏嬰は物とて唐虞の世おさすれも四出  
 あり。殷紂の時とて三仁あり。又これ上乃のこ  
 めもうらりもあり。只何節れありまひとてやう人。と  
 一人のいみおしとてまふもの候長とて乃時の後書  
 小まうとてそのはやありいんとしてとて若そのゆは  
 ありきとて。これ事とてうらりくも下とて今も新とて  
 とてPとて。一のわきとてはうとて。うとて。うらり  
 ありひ今乃おふあをわかとて解とて地ありとて。うらり  
 柳也とて荷の右れ肩とて。其はたうたれ肩

うらみ右ふすりあり。肩かたとありふされたおのりおれ酒こ  
 らなとて今と今とて昔ゆきとあり。けいふ又その昔  
 とけいひ甲うら世ふおちしあみおれいじにいと  
 うらうらあは。ち乃おひいけいあにいとあるありと  
 うらあひとあはちあまに人とうらあひとあるあり。あ  
 あとあまぬとにいとる。ちあふ今乃天下てんかの方かた民  
 とあり。ちん國はゆらふと延のび諸天しよてん歴れきたもとち  
 一又さよこれ日ふいふあふいあ。うらちりおらうら  
 人のまのたもとあふいとあふちりじもあてのら  
 うらうら事やあらん。昔日世ふ人をおらうらうら  
 かくておれとあふとあふとあふとあふとあふとあふと

けいふ天子もあふとて。師し通とといふものあり。今  
 はけいふ又友とあふものも今ハけいふ。是れとてうら  
 のせりる。ち。唯礼日むいふの師通しとんあふと人  
 ありてあをあふとあふとあふとあふとあふとあふと  
 舞目らうら。は倍は師たも師通とて國ふあふ  
 ちけいふのうら。このうら。はあふとあふとあふと  
 ちあふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと  
 君位とあふのつとあふとあふとあふとあふとあふと  
 君あふとあふとあふとあふとあふとあふとあふと  
 合のとてうら。あふとあふとあふとあふとあふとあふと  
 そんて。うらうら事乃國ふあふとあふとあふとあふと

新撰

三十一

俗人となりし又友となりし五里人乃び心の中を明て  
 うふぬ物なれども。かららる人なり。下く其何れも  
 せん。國のうらむる。心ある見らる。友といふも  
 心とのこす。うらむる。心ある見らる。友といふも  
 ぬ。ひよあ。きこと。と。あ。細。心。乃。あ。う。らん。と。友  
 形。ゆ。又。下。下。此。中。よ。人。の。友。と。なる。人。や。あ。あ  
 と。み。つ。ふ。其。力。正。直。なる。ハ。あ。ま。り。ぬ。け。く。ふ。い  
 解。く。て。田。ま。の。花。よ。ぬ。り。あ。ま。り。なる。と。た。ん。と  
 け。た。た。し。ふ。す。こ。こ。ま。ま。系。属。し。事。な。れ。を。公。ま。あ  
 形。ぬ。あ。あ。や。い。ん。を。大。と。あ。い。ぬ。と。ひ。つ。さ。い。よ  
 色。あ。ん。が。人。の。こ。み。あ。え。し。一。色。ふ。さ。れ。乃。じ。公。何

らか。君のけり。あ。お。たり。ぬ。下。く。解。ら。い。と。ま。い。友  
 と。せ。う。ま。ん。人。と。ま。ま。さ。る。り  
 信。目。師。通。と。う。き。友。な。れ。の。り。今。此。人。の。考。あ。り  
 乃。く。解。ら。ふ。利。振。る。事。と。も。打。志。免。ら。れ。乃。ふ。ま。ま  
 とも。今。ま。ま。さ。ら。る。或。ハ。其。若。と。う。く。或。ハ。水。乃。と。ま。ま  
 或。ハ。虎。の。皮。と。い。ら。り。錦。織。と。わ。り。世。と。偽。り。と。ま。ま  
 乃。く。ハ。上。等。と。り。も。偽。て。款。乃。乃。ら。う。と。ま。ま。免。待。聯  
 白。の。秀。乃。と。た。し。又。章。乃。と。ま。ま。綴。の。事。と。う。く。ま。り  
 人。ハ。一向。お。た。し。外。書。の。中。小。師。乃。と。あ。す。小。五。乃  
 とう。わ。り。一。ま。心。お。二。勤。業。三。介。守。四。崇。恪。五  
 篤。善。た。り。る。此。師。通。ら。何。ハ。あ。つ。ま。り。た。ふ。と。ま





行ひのやまや。倍人あまのたつらんさへ。師西あま  
 うたへ又申うぬのらうししん。されおけき  
 と時人乃善法(善法)とまふとみお人おらう人よき  
 事あなういし志らう。ちるふ他あうりよま乃法  
 ひてあうりてま師おらうらひ。身子よまうりまほし  
 とも然らゆさんたうんと也。よみたるハ、ま  
 師とまの善法(善法)とけぬたれと。初乃下まも  
 いまきて。まののこくあういり。いぞう人  
 かのたれ。一切乃事あ人の親をい同まき也。今たれ  
 師は事うたうとまき。おまき師と指ふ指  
 世出(世出)もおう。師乃公けありたれ也。

次ふこれ友の半。益者三友はまらん。賢智福を  
 うたふ友たれ。善子(善子)めと万章(万章)友と問ひとまき  
 るあう。こまと同。いれたり友は善乃ハ、まらり  
 わきき友は。こまのたふ善哉也。世作(世作)も人  
 善悪の友ふらうとまき。麻の中れあひおのつ  
 らる師。これともぞりま。朋のを方よりまら  
 ぬけしとまき。佛はの申ふ七徳のあうとま  
 友とまとあり。既の万里とゆく。善れ尾ふは  
 法持あり。うま友よりて至乃のまき。いと  
 ありんか。友とまらて仁とあす。いとまきまら。

一乃の魔射(魔射)まよふとあう。まらう乃まらんまら

友をくくつてすゝむ鮑真よも成つたは  
 手くくつてあきととがれと。今より友を  
 どれいも使えとれんううおれも捨  
 捨あり巧言 今も起きて人あひく  
 うたうぬハあき交りたといをら  
 田史野人のぬいりありとも徳の  
 子ハ多きひきききとも徳行あり  
 しくまれと武略あり。宿痛く  
 舞國をかう。西施ハくらけきとも  
 がり。人の賢解ハ徳ハあり。さ  
 又孔子ハ容ととめて人とも。これ

すもりまらう。さうハあきとも。同  
 舞うくべし。すまて徳のありハ  
 柳の花よ白もせて柳の枝よま  
 わんハあきとらうん  
 一又次ハ礼曰大物の命ハ行む  
 一山よ福も命うあきとらうん  
 又あきとみんるあきとらうん  
 さうらうひとあきとらうん  
 乃知とちいさうらうらう徳  
 何あきとらうて島ハあきとら  
 とう一大事あきとらうん

命とふ事をまつてまうつるあては石公張良上  
 侍今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍

張良上の御し。乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍  
 侍曰今乃物らうりハウ也侍あてハも。一入軍

として代の<sup>せいじん</sup>存<sup>ぞん</sup>人<sup>じん</sup>を<sup>あ</sup>約<sup>やく</sup>よ<sup>あ</sup>ず<sup>は</sup>は<sup>た</sup>か<sup>か</sup>の<sup>り</sup>ら<sup>る</sup>。醫<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>  
 志<sup>し</sup>の上<sup>じやう</sup>より<sup>し</sup>ら<sup>る</sup>。醫<sup>い</sup>書<sup>しよ</sup>も<sup>し</sup>ゆ<sup>ん</sup>と<sup>し</sup>と<sup>も</sup>。脈<sup>みやく</sup>を  
 たりて。人の<sup>しん</sup>生<sup>せい</sup>死<sup>し</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。此<sup>こゝ</sup>  
 名<sup>な</sup>醫<sup>い</sup>の<sup>し</sup>物<sup>ぶつ</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。醫<sup>い</sup>者<sup>しや</sup>の中<sup>ちゆう</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>脈<sup>みやく</sup>の<sup>し</sup>細<sup>さい</sup>は<sup>い</sup>は<sup>る</sup>  
 と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。脈<sup>みやく</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。今<sup>いま</sup>生<sup>せい</sup>死<sup>し</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。此<sup>こゝ</sup>  
 たりん。日<sup>にち</sup>本<sup>ほん</sup>ひ<sup>ひ</sup>り<sup>り</sup>と<sup>し</sup>也<sup>なり</sup>。と<sup>し</sup>も<sup>も</sup>。二<sup>に</sup>三<sup>さん</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 それと<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>あり。古<sup>こ</sup>人<sup>にん</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。文中<sup>ぶんちゆう</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 指<sup>さし</sup>下<sup>げ</sup>難<sup>なん</sup>的<sup>てき</sup>と<sup>し</sup>ら<sup>る</sup>。文<sup>ぶん</sup>章<sup>ちやう</sup>の中<sup>ちゆう</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>脈<sup>みやく</sup>の<sup>し</sup>事<sup>じ</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 書<sup>しよ</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。め<sup>め</sup>は<sup>は</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>。脈<sup>みやく</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。指<sup>さし</sup>の<sup>し</sup>下<sup>げ</sup>乃<sup>なり</sup>も<sup>も</sup>。  
 あ<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。運<sup>えん</sup>命<sup>めい</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 乃<sup>なり</sup>中<sup>ちゆう</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。運<sup>えん</sup>命<sup>めい</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。

ま<sup>ま</sup>の<sup>し</sup>や<sup>や</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。運<sup>えん</sup>命<sup>めい</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。生<sup>せい</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。或<sup>ある</sup>書<sup>しよ</sup>者<sup>しや</sup>  
 七<sup>しち</sup>回<sup>かい</sup>の<sup>し</sup>君<sup>きみ</sup>其<sup>その</sup>辞<sup>ことば</sup>五<sup>ご</sup>死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。執<sup>しやく</sup>庸<sup>ゆう</sup>次<sup>じ</sup>之<sup>の</sup>取<sup>とり</sup>歸<sup>かへり</sup>次<sup>じ</sup>之<sup>の</sup>  
 權<sup>けん</sup>次<sup>じ</sup>之<sup>の</sup>隆<sup>りゆう</sup>為<sup>なり</sup>下<sup>げ</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。也<sup>なり</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。久<sup>く</sup>の<sup>し</sup>死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 たりん。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。た<sup>た</sup>ら<sup>ら</sup>ひ<sup>ひ</sup>自<sup>みづか</sup>ら<sup>ら</sup>く<sup>く</sup>運<sup>えん</sup>命<sup>めい</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 ん。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。乃<sup>なり</sup>家<sup>け</sup>老<sup>らう</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。今<sup>いま</sup>あ<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。又<sup>また</sup>本<sup>ほん</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 たりん。猫<sup>ねこ</sup>の<sup>し</sup>り<sup>り</sup>ら<sup>ら</sup>。家<sup>け</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。時<sup>とき</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 たりん。家<sup>け</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。家<sup>け</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。家<sup>け</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。家<sup>け</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。家<sup>け</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 小<sup>せう</sup>運<sup>えん</sup>命<sup>めい</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。時<sup>とき</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。又<sup>また</sup>時<sup>とき</sup>に<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 天下<sup>てんか</sup>を<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。  
 死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。死<sup>し</sup>と<sup>あ</sup>ら<sup>る</sup>る<sup>る</sup>。

これより管見の如きなり。軍書より記しし如きなり。  
 此の一人も久し。実小重衡石田治教が揚子に  
 ありき。是は存るなり。久し。軍書より記しし  
 如きなり。此の如きなり。若し久し。此の如き  
 小重衡の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。  
 又次小重衡曰大勇小勇仁儀此勇血氣此勇と  
 云ふ事の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。  
 昔曰血氣の勇と云ふ。此の如きなり。仁義  
 の勇と云ふ。此の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。  
 乃ち久し。此の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。  
 甲て天下を治る。此の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。

かまふと云ふ物の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。  
 ともゆり。此の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。  
 かなしと大勇と云ふなり。  
 侍曰孔子乃才子に子路ハ勇をこれなり。ある時小孔  
 子ハ強と云ふ。此の如きなり。強と云ふ。此の如きなり。  
 南方ハ強。北方ハ強。此の如きなり。此の如きなり。  
 強乃ち此の如きなり。南方ハ強ハ君子ハ勇也。北方ハ強ハ  
 小人ハ勇なり。大ハ勇ハ孟子ハ齊王ハ此の如きなり。  
 此の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。  
 子ハ狗彘の勇。賈次血の勇。此の如きなり。此の如きなり。  
 此の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。此の如きなり。

行くふらうとてしとせ人ようとまぬ屋れ事う。ふまを  
 依奉<sup>ヨリノボ</sup>を志めりうかふあてられぬとし事をも屋れ  
 事とす。あや。齊<sup>せい</sup>れ國は勇をこのむ人あり。一人あま  
 鄭<sup>てい</sup>あり。一人西<sup>さい</sup>郭<sup>かく</sup>あり。一ふあつ時女人<sup>ゆきあひ</sup>たあくゆお  
 勇をこのむなまれば酒<sup>さけ</sup>を乃<sup>な</sup>まを教<sup>しゆ</sup>益<sup>えき</sup>たりし。一人  
 曰<sup>い</sup>わふとてし他人とすけり。一人曰<sup>い</sup>さうあつとてし  
 肉<sup>にく</sup>ありうらなうを肉<sup>にく</sup>あり。まんそかよれとめんとし。  
 刀<sup>やいば</sup>とぬきめんくの刃<sup>やいば</sup>肉<sup>にく</sup>とさうえたがひふとて絶  
 々<sup>さ</sup>々<sup>さ</sup>とめえお人ともふ死<sup>し</sup>して屋<sup>や</sup>をゆりやれ勇  
 ハ小人<sup>せうじん</sup>の勇れ肉<sup>にく</sup>也<sup>なり</sup>と下の下<sup>した</sup>あらん。勇<sup>ゆう</sup>に<sup>て</sup>勇<sup>ゆう</sup>り  
 ありす。勇<sup>ゆう</sup>者<sup>しや</sup>ハ不<sup>ふ</sup>懼<sup>く</sup>とす。あまくあつとてあつと  
 物<sup>もの</sup>ふ。れとさう。久<sup>く</sup>ハ一切<sup>いっけつ</sup>乃<sup>なり</sup>すれが純<sup>じゆん</sup>するハた勇<sup>ゆう</sup>カ  
 ちうさうや。これハ商人<sup>かうじん</sup>の志<sup>し</sup>ぬ國<sup>くに</sup>おろし。こ山  
 海<sup>うみ</sup>と志<sup>し</sup>のまて。あまこあひありくハれ勇<sup>ゆう</sup>り。大<sup>たい</sup>正<sup>せい</sup>  
 事<sup>こと</sup>もあまよのりか。これ櫛<sup>し</sup>ぬさともさうも勇<sup>ゆう</sup>也<sup>なり</sup>。  
 又<sup>また</sup>海<sup>うみ</sup>士<sup>し</sup>乃<sup>なり</sup>風<sup>ふう</sup>波<sup>ぱ</sup>の難<sup>なん</sup>と志<sup>し</sup>のれておあひあつらありて海<sup>うみ</sup>  
 とさうと勇<sup>ゆう</sup>あり。獵<sup>りやう</sup>者<sup>しや</sup>のくもさ。東<sup>とう</sup>山<sup>さん</sup>深<sup>しん</sup>山<sup>さん</sup>の中<sup>なか</sup>は  
 けりて岩<sup>いわ</sup>石<sup>いし</sup>の峻<sup>げん</sup>一<sup>いつ</sup>きとけりて。歎<sup>なげ</sup>とさうと勇<sup>ゆう</sup>こ  
 とさうと志<sup>し</sup>のあつらあり。あつとて。傍<sup>たがひ</sup>曰<sup>い</sup>は法<sup>はふ</sup>  
 と終<sup>しゆう</sup>行<sup>ぎやう</sup>するはさうあり。あつとて。勇<sup>ゆう</sup>余<sup>あま</sup>ふおろし。あつと  
 とも行<sup>ぎやう</sup>する。あつとて。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>と退<sup>たい</sup>將<sup>しやう</sup>をぬくと勇<sup>ゆう</sup>極<sup>ごく</sup>の  
 乃<sup>なり</sup>行<sup>ぎやう</sup>とす。又<sup>また</sup>急<sup>きゆう</sup>志<sup>し</sup>を歎<sup>なげ</sup>族<sup>しやく</sup>乃<sup>なり</sup>ゆ。さうあり。あつと

物<sup>もの</sup>ふ。れとさう。久<sup>く</sup>ハ一切<sup>いっけつ</sup>乃<sup>なり</sup>すれが純<sup>じゆん</sup>するハた勇<sup>ゆう</sup>カ  
 ちうさうや。これハ商人<sup>かうじん</sup>の志<sup>し</sup>ぬ國<sup>くに</sup>おろし。こ山  
 海<sup>うみ</sup>と志<sup>し</sup>のまて。あまこあひありくハれ勇<sup>ゆう</sup>り。大<sup>たい</sup>正<sup>せい</sup>  
 事<sup>こと</sup>もあまよのりか。これ櫛<sup>し</sup>ぬさともさうも勇<sup>ゆう</sup>也<sup>なり</sup>。  
 又<sup>また</sup>海<sup>うみ</sup>士<sup>し</sup>乃<sup>なり</sup>風<sup>ふう</sup>波<sup>ぱ</sup>の難<sup>なん</sup>と志<sup>し</sup>のれておあひあつらありて海<sup>うみ</sup>  
 とさうと勇<sup>ゆう</sup>あり。獵<sup>りやう</sup>者<sup>しや</sup>のくもさ。東<sup>とう</sup>山<sup>さん</sup>深<sup>しん</sup>山<sup>さん</sup>の中<sup>なか</sup>は  
 けりて岩<sup>いわ</sup>石<sup>いし</sup>の峻<sup>げん</sup>一<sup>いつ</sup>きとけりて。歎<sup>なげ</sup>とさうと勇<sup>ゆう</sup>こ  
 とさうと志<sup>し</sup>のあつらあり。あつとて。傍<sup>たがひ</sup>曰<sup>い</sup>は法<sup>はふ</sup>  
 と終<sup>しゆう</sup>行<sup>ぎやう</sup>するはさうあり。あつとて。勇<sup>ゆう</sup>余<sup>あま</sup>ふおろし。あつと  
 とも行<sup>ぎやう</sup>する。あつとて。信<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>と退<sup>たい</sup>將<sup>しやう</sup>をぬくと勇<sup>ゆう</sup>極<sup>ごく</sup>の  
 乃<sup>なり</sup>行<sup>ぎやう</sup>とす。又<sup>また</sup>急<sup>きゆう</sup>志<sup>し</sup>を歎<sup>なげ</sup>族<sup>しやく</sup>乃<sup>なり</sup>ゆ。さうあり。あつと



いふふてはれのおん時。んとうらとせん屋  
う編て。んくくくくみゆいふぬいふ  
修一きふゆす

侍曰ま君より人今乃一照ハ一かられんかた  
あつてま君の國をおさるは刑と徳との二  
おさゆつとちかより刑徳を賞罰乃事也人  
乃ら賞罰とあり時群臣乃威とあり  
其賞とたのきびより君の君よりゆえ人の賞罰を  
以て君とまるとり刑人まあり賞の家老  
よあり時群臣乃賞とありひてま人小行の  
修一すされ田常乃賞とおひてぬとたて

徳と殺せり又徳と人まより刑と徳と  
てたりとをこれあきまりされは宋君乃徳と  
なり子寧ハ乃刑とおこるひよりなり宋君  
とおびやより人刑徳とに家臣  
ハ國りらびんる徳とめくをるす。趙高  
世とより。王莽乃侯のうよりた賞罰  
人まのむよありておこるなりまありと人まの  
一人刑徳とたりはか賞と人まと賞と  
あふまゆへは忠すもなり又刑と人まと刑をぬも  
何ん人まにおるはなり。まは刑徳の事  
ふあり又天下その威とおこる。四海は徳と



其後と賢治の多し多ふあり。一のめ若し忠に  
 乃後とせしめ。愚賢と聘し給ふも。貴爵威惠の  
 乱治あり。仲尼の衛より一に趙鞅傳とあり。平本  
 魏よりありし。秦人兵を屈けり。賢治あり。い  
 たり。これゆへ人多し。此はとらむ。有るは。の  
 とも。だ。し。人。の。賢。治。と。乃。め。人。多。く。賢。と。か。り。て  
 と。い。ゆ。へ。多。し。あり。し。又。不。肖。と。い。ふ。て  
 又。不。肖。の。もの。君。と。怨。て。さ。び。け。り。あ。ん。の。ま。は。き。り  
 乃。橋。と。あ。り。り。乃。橋。と。あ。り。て。賢。と。い。ふ。は  
 して。賢。と。い。ふ。不。肖。と。い。ふ。は。不。肖。と。い。ふ。

ぬ。屈。し。ふ。は。賢。賢。は。目。し。ふ。は。不。肖。ハ。時。く  
 あ。り。多。く。て。群。臣。万。民。の。威。を。お。う。ま。す。其。徳。を。た  
 の。ま。り。て。國。を。お。さ。ま。を。格。さ。う。る。ふ。ハ。礼。と。お。り。て  
 威。を。さ。う。ま。ぬ。と。ハ。格。さ。う。る。ふ。ハ。明。主。躬。操  
 威。息。不。假。久。以。利器。と。ハ。セ。り。利器。ハ。貴。爵。乃。三  
 極。さ。り。ある。は。又。感。恩。を。假。さ。す。と。ハ。セ。り。や。ハ。入  
 乃。曰。上。卷。の。か。り。て。是。の。は。ゆ。り。乃。物。と。各。の。是。命  
 阿。ん。吉。め。我。亦。亦。物。亦。付。な。し。れ。ぬ。を。知。て。安。信。の。ハ。也  
 偽。曰。物。さ。り。取。り。ゆ。ふ。と。い。ふ。は。さ。り。と。い。ふ。は  
 たり。乃。廣。學。宏。教。人。の。名。知。と。さ。り。物。は  
 物。乃。さ。り。を。知。る。は。知。の。徳。を。論。し。中。こ。り。ふ。人

の人のつたの。三綱五倫（三綱五倫）中未前後ハ仁徳と徳  
をり。仁者ふあゝとハ三五ハたゞし。すゑお大  
乃勇ふしれさこ是ハ勇徳なり。知仁勇ハ三徳  
とあり。へり。事終てこれ者若れ分別  
たり。下巻ハと行り。りさ事あるんを。乃  
後よち把り。り。り。

延享（延享）  
辰

